

2026 年度 国際学科

小 論 文

〔自己推薦 A O (A・B)〕 14・15-02

注 意

1. 監督者の合図があるまで問題冊子は開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙のきめられた箇所に記入してください。

問題

以下の文章を読み、下記の問いに答えなさい。

私はフリーランスのライターとして国内外のマイノリティのコミュニティーを取材し、記事に書いている。そういった対象に興味を持つのは、自分自身がイギリスやニュージーランドで暮らしたり、バックパックを背負ってアジアやヨーロッパを旅したことを通じ、各地でマイノリティの痛みを味わったからだと思う。これまでに移民、少数民族、難民など、様々な背景を持つ人々を取材してきた。彼らが語る言葉は示唆に富んだ印象深いものが多く、胸をえぐられるような問いを投げかけられることがある。その中でも忘れられないものの一つは、2015年に東京で暮らすアメリカ人男性に取材したときの言葉だ。移民に母国との違いを聞く企画だったが、彼は声を潜め、まるで重大な犯罪行為を明かすような口調でつぶやいた。

「私は実はムスリムですが、そのことは書かないでください。日本の友人をなくすかもしれないので」

周囲の雑音にかき消されそうな声を、私はなんとか聞き取った。

彼はそんなことを考え、疑心暗鬼の中で生きているのか。衝撃を受けた私は、国内のムスリムのことを知らなければいけないと思った。無知に忍び込んだ情報や物語は、平凡な人間のイメージを善人にも悪人にも変えてしまうことがあるからだ。多くの市井のムスリムは、ここ数十年、その構図に吸収されている。[中略]

旅や海外での居住を通じて、サウジアラビアやパキスタンにルーツを持つムスリムと出会い、交流したことはあったが、確かに彼らは、私たちが慣れ親しんだものとは違った習慣や価値観も持っていた。移民なしには労働力を補えない時代に突入している日本で、ムスリム人口が増え続けると予想される今、私たちは、彼らとどうつきあっていくべきかを模索する必要がある。

出典：岡内大三『香川にモスクができるまで 在日ムスリム奮闘記』晶文社 2023年

問1 著者の言う「マイノリティの痛み」とはどのようなものだと考えられますか。具体的に説明してください。(300字)

問2 移民が増加する日本社会における課題とその解決策に関して、あなたの考えを具体的に述べてください。(700字)

※文字数は目安です。それより多少多くても少なくても構いません。